

Title	情報システム導入時における改善の重要性とその方法-情報とモノの流れの分析とその改善-
Sub Title	
Author	山下裕丈(Yamashita, Hirotake) 河野宏和
Publisher	慶應義塾大学大学院経営管理研究科
Publication year	1997
Jtitle	
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	修士学位論文. 1997年度経営学 第1392号 その他:一部のみ
Genre	Thesis or Dissertation
URL	<a href="https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40003001-00001997-1392">https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40003001-00001997-1392</a>

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the Keio Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

## 情報システム導入時における改善の重要性とその方法 —情報とモノの流れの分析とその改善—

近年、日本企業における情報化投資は盛んであるが、その効果が十分に発揮されているとは言い難い。その最大の原因は、業務の問題をそのままにして情報システムを導入している点にある。非効率を内在した情報システムは、複雑で柔軟性を欠き、人手による例外処理といった問題を生じ、業務に役立たない場合が多い。そうした問題の発生を防ぎ、解決していくためには、情報システム導入前に、業務自体の効率化を図るよりない。そしてそのためには、まず業務の問題を正確に認識することが必要である。

本論文では、上記の問題意識から、情報システム導入に関わる業務上の「情報の流れとモノの流れ」に着目している。情報の流れとモノの流れは、本来対応すべきであり、業務の非効率性は、その不一致として現れるからである。

そして、具体的な問題発見・業務改善の手法として、「情報物流フロー図」と、「情報精度推移表」の二つのツールを提案している。これらのツールでは、一連の企業活動における情報の流れとモノの流れを、時間の経過と関係する主体、部門というフレームワークの中で、社内外に渡って分析することで、現状の業務の問題点を発見し、改善への取り組みに役立てていこうとしている。

さらに情報システムの運用に苦勞している I 社、K 社という実際のメーカー 2 社をケーススタディとして取り上げ、ここで提案している考え方と分析手法を適用し、その有効性を確認している。